

17 年度 Q3 決算説明会 質疑応答要約

- Q) 第3四半期決算の社内的な目標に対する評価を教えてください。
- A) 各事業とも事業環境については上期までの傾向と大きくは変わらない。
第3四半期についても、売上収益は為替が円安だったことによる上乘せ分を除けば、ほぼ想定通りでの着地となった。一方事業セグメント利益は、製品構成差や販管費の計上タイミングのずれなどもあったため、計画よりも20億円程度上振れての着地となった。
- Q) 第3四半期までは高い利益率で推移してきているが、それに比べると第4四半期の見通しを少し低く見ているのは、事業環境の変化などのリスクを考慮しているからなのか？
- A) 事業環境や収益構造が変わってくることは基本的には想定していない。過去からの傾向として、第4四半期は経費などの固定費の計上が増えることから、四半期単位で見ると少し収益性が弱く見える計画となっている部分があるのだと思う。
- Q) プリンティングの市場環境などに変化は感じるか？
- A) ブラザーの主力であるコンパクトなレーザー製品については、グローバルで需要が強く、販売数量も前年に比べて大きく増加している。このような状況から判断すると、市場は下げ止まっているのではないと思う。ただ、このまま市場が回復し、再び拡大していくという見方をするのは難しいと思うので、基本的には横ばいで推移してくれば良いのではないかと考えている。
- Q) 産業機器（工作機械）、自動車関連向けの堅調が続いている背景は？
- A) 工作機械に対する需要が好調であることに加え、過去から取り組んできた営業活動の強化により、ブラザーの小型マシニングセンターに対する顧客評価が高まっており、それが好調な業績に結び付いていると考えている。
- Q) ドミノ事業の第3四半期の業績が減益となっている背景は？
- A) 基本的な事業環境に変化があるわけではなく、製品構成が少しローエンド寄りになったことや、翌四半期への検収の期ずれが発生したことが最大の要因。加えて、開発コストなどの先行費用も増加していることも減益の要因となっている。

以上